

平成 25 年 5 月 23 日 (水)

～《算数科》 5, 6 年公開研究授業～

☆ 5 年 小数のかけ算を考えよう (8/11)

《本時の目標》 純小数倍で表す場合も含めて、小数倍の理解を確実にする。

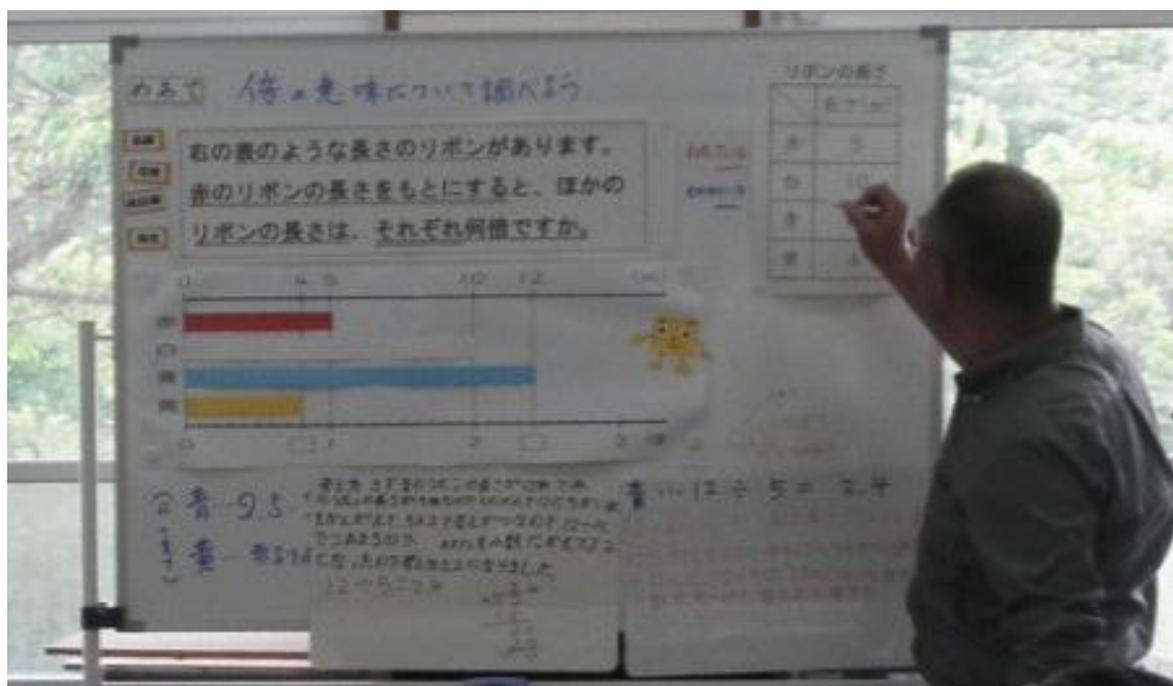
☆ 6 年 分数のかけ算を考えよう (7/9)

《本時の目標》 分数の場合でも計算のきまりを使って計算することができる。

☆ 簡単な授業の流れ

5 年	6 年
1 9①・②の問題をノートに書き、計算のきまりを使って解かせる。	1 計算の決まりが分数でも成り立つかを確かめよう。
2 本時のめあてを確認する。	2 本時のめあてを確認する。
3 赤と青のリボンの長さを比べる。	3 確かめたことを発表しよう。
4 赤と黄色のリボンの長さを比べる。	4 教科書 8 の問題に取り組む。
5 本時の学習をまとめる。	5 本時のまとめをする。
6 学習感想を書く。	6 次時の予告をする。
7 次時の予告	7 学習感想を書く。

5 年 板書



6年自分の考えを板書で説明中（学習リーダーが前でまとめる）



○研究協議より

この日の学習
リーダーさん！

☆授業者より

- ・リーダー学習については、取り組みを始めたばかりでこれから児童を鍛えていき、活躍させていきたい。
- ・両方ともできにくい単元であった。
- ・発問が難しく悩んでしまった。
- ・今後時間配分が課題である。

☆参観者より

- ・1時間の流れが児童にも分かるようにしていく手立てが必要。
- ・複式学級はいかに時間を短縮するかであるので、発問も簡潔に絞っていく。
- ・5年生は、問題から入ったらもっとスムーズであったように思う。（今日のポイントは倍の問題であった為、前時の問題はいらなかったように思う。
- ・リーダー学習はしていたが、先生がまとめていた為、もっと児童に任すべきであった。この部分で児童を育てるようにしたらよい。
- ・複式では、やはり間接の時間にいかに児童が意欲的に活動するかであるため、一人学びやとも学びを今後も充実させる手立てをもつこと。
- ・ノート指導も今後も続けていくようにする。

- ・児童に説明をさせる時は、何を説明させたいのかをはっきりと仕方を教師が児童に指示していないといけない。

☆今後取り組むこと

- 1、流れの把握
- 2、間接では何をしたらよいのか児童にしっかりと把握させる。
- 3、ノートの取り方
- 4、リーダーを使ってやってみる。
- 5、今までの学習の言葉や前時の大事なキーワードや手がかりになるものを文字化する。
(視覚として提示するなど)
- 6、学級の机の配置など落ち着いて学習できるようにしておく。

※だれでもできる・いつでもできる⇒子どもたちに

○授業風景（机と椅子の位置を変えて）

6年生は前の黒板で学習。

5年生はホワイトボードでの
学習。



～間接時～

6年生は自分たちで自力解決中。